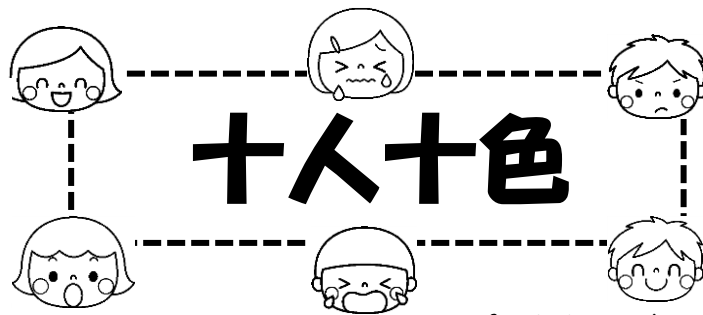


# 10月



## 十人十色

2020, 10, 5

縄瀬 保育園

山元 紀代美

NO13

(みんなちがってみんないい!)

### \*N君のリハビリ

N君は9月から縄瀬保育園に転園してきました。それまでは1歳から3歳まで他の保育園に通って来ました。N君は少し恥ずかしがり屋で、マイペースな感じの子どもです。毎月1回行われる『冒険遊び場』にこれまで何回か、お母さんと参加していました。動物と触れ合ったり、木工を楽しんでいる姿がありました。慣らし保育も重ね、すんなり馴染むかなあと思っていたのですが、N君の不安そうな顔。もちろん環境が変わることは、大人の私たちでさえ不安ですので、子どものそして繊細なN君にとっては、相当なものだろうと推測され、担任も目を離さず寄り添っていました。慣らし保育をしている時から、『色水づくり』にはまっていたN君。入園して10日間ほど毎日、色水づくりです。出来た色水を必ず1本『持って帰っていい?』と聞いてきます。『いいよ。お母さんに見せてあげてね!』と言うととてもうれしそうに帰っていくのでした。そのうち、朝、お母さんと離れられず泣く日が続くようになりました。お母さんが帰るとすぐに泣き止んで、色水を作る日が何日も続きました。N君を見ていると、周りの子ども達の遊びを観察しながら、所定の場所で遊んでいます。もちろん、他の子たちは時々N君の周りにやってきて、色水したり、声をかけています。他の遊びにも誘ってみますが、『しない・・・』とN君の返事。担任と話し合ってみました。縄瀬保育園は自分の好きな場所で、好きな遊びを存分にさせる保育です。子ども達は1日中、虫さがしをしたり、泥団子を作ったり、水遊びをしたりが当たり前の保育園です。N君は『何でも、好きなことをしてもいいんだよ!』という言葉に戸惑ったことに気づきました。何をしたらいいのかわからないのです。N君はこれまで、大人主導の保育を受けてきました。『はい、トイレに行こうね!』『はい、おりがみだよ!』『はい、ブロックを出したからこれで遊んでね!』『はい、みんなでご飯だよ!』それですと過ごしてきたN君にとっては、自分で考えて行動するという事がとても難しかったんだと思います。

縄瀬保育園では、トイレに誘うこともありません。自分が行きたいタイミングで『おしっこ、行ってくる!』と大人に告げていきます。担任は『いっていらっしやい』の一言です。しかしここでは必ず帰ってきた子どもの様子を担任は把握しておきます。漏らしたりした時には行動が変わります。そこを察知して言葉をかけたり、後始末をそっとしてあげます。うちの時には『お尻は一人でふけた?』とさりげなく声をかけたり、個人個人に合わせて、あとからさりげなく付いて行き、トイレの様子を見守ったりしています。これを繰り返しながら、自分でトイレに行くことを学んでいきます。

N君の『色水づくり』も良く考えると、これしかできなかったんだと思います。これを作ることがN君にとっては精一杯だったのでしょう。N君の戸惑いが、自分たちのやってきた大人主導の保育を改めて考えさせられる出来事でした。そして、私たち保育士の学びでもありました。子どもはもっと自由であるべきですし、大人はもっと子ども達を信じて開放してあげるべきだと思います。大人に信じてもらうこと、肯定してもらうことで、子ども達の自己肯定感が育っていくのではないかと思います。

N君は少しずつ、他の遊びも出来るようになりました。先日は、じゃぶじゃぶ池で頭からずぶぬれになって遊んでいました。お友達と喧嘩もできるようにもなってきました。積み木もお友達に教えてもらいながら、仲間に加わっています。『保育園たのしい?』と聞くとにやりとします。また、『今日は(朝)泣かんかった?』と聞くと『ちっと泣いた!』と答えてくれます。N君のリハビリももう少しで終わるかな?と思う園長でした。



リハビリ中の色水!おばあちゃんちに飾ってあります。